

PROGRAM NOTE

2021年03月

I TEC (アイテック)で 愛の共同体を



今やスティーブはアウカ族の救世主（中央）

1956年（昭和31年）1月。HCJB放送局から「南米エクアドルの東部ジャングルで宣教師五人が行方不明！」という衝撃的なニュースが飛び、続いて全員死亡の確認が伝えられました。2年後、殉教者のパイロットだったネート・セイントの未亡人マージが来日。東京の神学校で講演することになり、私はその時上映されたスライドの翻訳を手伝わされました。まさか私自身がエクアドルへ遣わされることになろうとは夢にも思っていませんでした。

1958年（昭和33年）「ジャングルの五人の殉教者」が実業之日本社から出版され、訳者の中野五郎氏は「この本は私がジャーナリストとして世界中を調査追求した中で、これこそは事実は小説より奇なることを立証した二十世紀空前の冒險と宗教的情熱と人間愛の記録だ」と評されました。同じ年に来日したマージも中野氏との談話の中でこう語りました。「私たちの夫たちはジャングルで毒槍の犠牲になりましたが、加害者を決して恨んではいません。ただ愛だけは原始民族にも通じる世界共通語だと信じています。エクアドルでの宣教活動は続けます」マージの子供たち、長女キャシー（16歳）と長男スティーブ（14歳）は、父親の殉教の地であるクラライ河で洗礼を受けます。洗礼に立ち会ったのは父親を襲ったアウカ族のキモとドゥウェイ。父親が毒槍で刺されて血を流したクラライ河の水が、今は転じて生まれ変わりを象徴する清らかな水へと変わったのです。五人の死は無駄ではありませんでした。



ITECの活動を支えるエクアドルのグループ



成人するにつれてスティーブの心に新しいチャレンジが芽生えました。36年間ジャングルで聖書翻訳宣教師として生涯を捧げた叔母であるレイチェル・セイントの葬儀が行われた時のことです。ジャングルでの葬儀の世話をした村の代表者たちがスティーブに相談にやってきました。「自分たちには指を使って数える能力ぐらいしかないが、もっといろいろなことを習いたい。虫歯を抜いたり、薬の調合、傷の手当、手術もやってみたい。ジャングルを往復する小型機やモーター付カヌー、それに家を建てたり、家具を作ったり・・・」そこで早速手始めに村の長老ミンカヨをITECのメンバーと一緒にインドの僻地へおくりこんだところ大成功でした。人がそれぞれ与えられているものを生かして役立たせることで新しい助け合いの輪が広がること、やればできることを体験できたからです。主イエスも多くの人々を助けられると同時に、弟子たちにそれを託されました。五人の殉教者の死は無駄ではありませんでした。ITECのモットーは、

You Teaching Us, Together We can Teach（教え、教えられ、共に仕え合う）奉仕団体です。世界にこの働きが広がり用いられるようにお祈りください。

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 每週土曜日放送		淀橋教会 峰野龍弘主管牧師 每週日曜日放送	
3月06日	折り紙の詩（アフリカ大陸）	3月07日	旧約聖書 創世記 イサクの過ち
3月13日	「五人の殉教者」（1）トム ワイズリー教授	3月14日	リスナーからの「お便り交換の時間」
3月20日	「五人の殉教者」（2）トム ワイズリー教授	3月21日	旧約聖書 創世記 イサクとアビメレクの契約
3月27日	マリンバの調べ（ワルツ特集）	3月28日	旧約聖書 創世記 エサウとヤコブの争い

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半~8時 15410kHz (再放送) 午後8時~8時30分 11905kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

*受信報告書をメールで送る場合：hcjbjapan.office@gmail.com

